

## 第三者評価結果報告書

総 括	
対象事業所名	横浜市金沢八景保育園（4回目受審）
経営主体(法人等)	社会福祉法人 しなのめ会
対象サービス	児童分野 保育所
事業所住所等	〒236-0026 神奈川県横浜市金沢区柳町1-3
設立年月日	平成14年4月1日
評価実施期間	平成28年6月～29年2月
公表年月	平成29年7月
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部
評価項目	横浜市版
<b>総合評価（事業所の特色や努力、工夫していること、事業者が課題と考えていること等）</b>	
<p><b>【施設の立地・特徴】</b></p> <p>・立地および施設の概要            横浜市金沢八景保育園は、京浜急行またはシーサードラインの金沢八景駅から、シーサイドラインの高架を見ながら平潟湾に沿って歩くこと約8分の場所にあります。金沢八景駅周辺は商店、マンションが立ち並ぶ地域ですが、駅を離れるにつれ静かな住宅地となっています。金沢八景保育園周辺は道沿いに海が見えて開放感があり、野島公園など公園が多数ある、自然も豊かな環境です。横浜市立大学のキャンパスは広域避難場所にもなっています。</p> <p>園に隣接して八景公園があり、平成27年にはその一角に、津波避難施設ができました。園舎は柳町コミュニティハウスと合築の3階建て建物の1、2階部分です。1階が0、1歳児、2階が2～5歳児の保育室となっています。広い園庭があり、平成28年10月には2つ目のデッキテラスと築山を整備しました。園庭の隅には畑も整備され、季節の野菜を育てて食しています。</p> <p>・園の特徴            平成14年に指定管理者として運営を開始し、平成29年度からは第4期目の選定継続が決まっています。平成23年の現園長就任後から、選ばれる保育園となるために、徹底した「子ども主体の保育」を特徴とする「八景保育園の保育」の質を高めることを目指しており、横浜市の職員配置基準を上回る保育士16名を配置しています。</p> <p>定員は0歳から5歳まで各10名ですが、待機児童解消に協力し、現在69名が在籍しています。保育方針として、人間関係の基礎を養うことを掲げ、年齢別のクラスのほかに、0、1歳児、2歳児、3～5歳児のクラスを並行して定め、発達の異なる子どもたちが、常に自分が何をやりたいかを自主的に考え、保育室の中を自在に移動しながら、一緒に生活しています。それゆえ職員も「全職員で子どもを育てる」意識をもって保育をしており、上のクラスへの移行も年齢や月齢で区切らず、一人一人の発達に合わせて、その子に適した時期にするようにしています。毎年、保育の中心となるテーマを決めて保育を展開しており、平成28年度の保育園テーマは「発見～みんなと日本～」でした。</p> <p><b>【特に優れていると思われる点】</b></p> <p>1. 徹底した「子ども主体の保育」と、それを実現するための環境整備            指導計画によって、子どもに必ず経験してほしい課題活動や、大まかな生活の時間の流れは決まっていますが、常に子ども主体であることを大切に、職員は様々な仕掛けをしながら、子どもが自ら考えて行動するのを見守っています。園内には、今年度のテーマに因んだ、書き込みができる日本地図や、感謝の言葉を貼りつけられる本物の木でできた「サンクスツリー」、面白い人形や自然物を素材とした装飾、虫や</p>	

熱帯魚の飼育箱が置かれ、「えさをあげてね」「こんなものもつくれるよ」など、子どもに向けたメッセージがあちこちに見られました。時計や時計の絵本、カレンダーなどを置いた「じかんこーなー」を始めとするさまざまなコーナーを保育室に常設し、園庭の築山にスロープをつけるなど、子どもの興味や関心をそそり、遊びたい意欲をかきたてられるような環境づくりに工夫を凝らしています。食べる、寝るなど生活の場面でも、職員が決まった時間に声をかけて、一斉に動くことはなく、自分で時間を決めて主体的に行動することを尊重するよう、関わり方にも細心の注意を払っています。

## 2. 保育の質を高めようとする職員の意欲的な取り組み

中堅職員が中心になって保育者としての行動規範「こころざし」～子どもが楽しく生活するために～を自主的に作成し、全職員が行動を共通のものとしてできるよう工夫しています。「こころざし」では、職員が子どもに「こうなってほしい」というモデルを示していくことや食事、子どもとの関わり方、環境について、求められる行動や、なぜそうするのかを詳細に明文化しています。職員は、それができているかを互いに振り返り、園長の助言も受けながら、内容の見直しの検討も進めています。職員が同じ志を持って、保育の質の向上に意欲的に取り組んでいます。

## 3. 保護者に園の保育についての理解を深めてもらうための積極的な情報発信

入園説明会や保護者懇談会、個人面談、保育参観や保育参加を通じて、保護者に保育方針を説明しているほか、園長は毎月の園だよりで具体的に子どもの様子やこの園の保育についての考え方を記述し、保護者に保育方針が伝わるよう積極的に発信しています。年度末の保護者懇談会では、パワーポイントを使って一年間の様子を写真入りで伝え、保育内容・目的を分かりやすく説明しています。子どもたちの写真、製作物には詳細にコメントをつけて展示し、行事の様子を収めたUSBの貸し出しを行ったり、ホームページのブログで日々の保育の様子を伝える努力をしています。園舎内には、保護者に向けてのメッセージの文書や、勧めたい本も置かれています。前年度末に実施した保護者の声を受けて、今年度からは、保育室まで行かなくても、その日のすべてのクラスの保育の様子が見られるように、エントランスにコーナーを設け、日々の子どもの活動を写真や文章で紹介しています。

今回の利用者家族アンケートでは、87%の保護者が、保育目標・方針を知っていると回答し、そのうち94%の保護者が、その内容に賛同できる・まあ賛同できると回答しています。

### 【特に改善や工夫などを期待したい点】

#### 1. 保護者からさらに苦情・要望の訴えやすい仕組みを

園長は保護者に対して、園だよりで一般的な園行事の連絡のみではなく、自ら園内での子どもたちのほのぼのした状況もお知らせしたり、また、苦情要望に対しては即刻対応して保護者と良好な関係を保っています。さらに保護者が苦情・要望を訴えやすい仕組みとして、外部の権利擁護機関のお知らせを年間通して行うことと、第三者委員を法人外の方に依頼することの検討を期待します。

#### 2. 地域とのさらなる関係構築を

地域の中の保育園として、町内会等と協働の企画を実現するなど、計画的な交流をすることで地域との関係をさらに深め、保育所に対しての地域の理解が進むことを期待します。

### 評価領域ごとの特記事項

#### 1. 人権の尊重

・園の基本方針・保育目標は、安全・安心、信頼をモットーに地域との共生を目指すことを基本理念とし、人間関係の基礎を養い、物事に感動する美しい心を育て、誰からも愛され、愛せる、心身ともにたくましい子を育てることを掲げ、利用者本人を尊重したものとなっています。

・この園では、子どもの主体性を旨とし、子どもの自分からやりたい気持ちを常に尊重して対応しており、職員は見守りに徹し、職員側からせかしたり、何かをすることを強要したりすることはありません。必要なときには子どもと向き合ってゆっ

	<p>くりとわかりやすい言葉で話をしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・守秘義務について、職員には入職時にマニュアルを配付し、意義や目的を説明し、周知しています。ボランティア・実習生にも、受け入れ前のオリエンテーションで説明しています。</li> <li>・虐待の定義が明記された園独自の児童虐待等対応マニュアルが全職員に配布され、虐待が疑われる場合や明白になった場合には関係機関と連携し速やかに対応できる体制となっています。</li> </ul>
<p><b>2.意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の意向は、入園前の面談、連絡帳や日々の送迎時の対話、9月の個人面談で聞き取り、指導計画に反映しています。</li> <li>・トイレトレーニングは、子どもがトイレで排泄できたとき、自分から気づいてトイレに行けたときに始めるなど、個々の成長に合わせてタイミングを見ながら進めています。</li> <li>・園の方針として、年齢や月齢でなく、その子の発達を注視して対応しており、2歳児の2階保育室への移行も、一斉にするのではなく個別の発達状況に応じてしています。</li> <li>・指導計画によって、子どもに必ず経験してほしい課題活動や、大まかな生活の時間の流れは決めています。常に子ども主体であることを大切にし、職員は様々な仕掛けをしながら、子どもが自ら考えて行動するのを見守っています。職員から先に声をかけて、決まった時間に一斉に動くことはありません。</li> <li>・玄関付近に意見箱を置いているほか、園のホームページからメールで意見や要望が送信できます。懇談会（4月、2月）、個人面談（9月）、年度末のアンケートなど、保護者から意見や要望を聞く機会を多く設けています。</li> </ul>
<p><b>3.サービスマネジメントシステムの確立</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園で共通の「新入園児アセスメントシート」を用い、子どもの生活歴や授乳・離乳の状況などを詳しく聞き取り、把握した情報を児童票に記録して職員間で共有しています。</li> <li>・0・1歳児、2歳児、3～5歳児のクラスごとに、年間保育計画、月保育計画、週案、デイリープログラムを作成しているほか、0～2歳児については、個人別に月保育計画を作成しています。</li> <li>・毎日10分会議、毎月クラス会議、クラスリーダー会議、職員会議があり、職員間で保育の進捗状況を共有し、子どもの発達や状況に応じて、指導計画の作成・評価、見直しを行っています。</li> <li>・各家庭でA6判のノートを用意してもらい、0～2歳児までは、毎日、体温や排泄、生活時間、活動、食事の内容、子どもの様子などを、家庭と園の双方で書き込み、連絡を取り合っています。3歳以降も必要に応じて活用しています。</li> <li>・子どもや家庭の個別の状況・要望、入園後の成長発達の記録、進級時の申し送り事項等が児童票にまとめてあります。児童票は、事務室で施錠保管され、全職員が必要時に閲覧し、子どもの情報を把握することができます。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児突然死症候群対策として、0歳児は5分、1歳児は10分、2歳児は15分ごとに睡眠中の呼吸の有無、寝ている向き、うつぶせ寝を仰向けになおすなどのチェックを行い、睡眠安全チェックシートに記録しています。</li> </ul>
<b>4.地域との交流・連携</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育園外の掲示板やホームページで、園庭開放、なかよし広場、体験給食、育児講座、育児相談などの情報を案内しています。今年度は乳児・親子ブラッシング教室も6月と11月に開催しました。園庭開放、なかよし広場等の利用者から育児相談があれば、いつでも対応できる体制にしています。</li> <li>・園行事 8 フェス（夏祭り）は地域の方にも知らせ参加を呼びかけています。</li> <li>・金沢図書館や3階のコミュニティハウスの図書コーナーに、年長児が、午睡をしなくなった時期の活動として、絵本を借りに行くなどしています。</li> <li>・園に飾る花は地域の花屋に買いに行き、散歩で出会った地域の方とあいさつする、隣接する八景公園や園の周辺のごみ拾いをするなどして、地域の交流を図り、友好的な関係を築いています。</li> <li>・平成27年度はインターンシップ2名、ボランティア36名（近隣高校生による吹奏楽の演奏披露）の受入れがあり、平成28年度も1月に受入れ予定があります。実習生は、大学、短大、専門学校等、複数校から依頼を受け、毎年受け入れています。</li> </ul>
<b>5.運営上の透明性の確保と継続性</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成23年度～平成28年度についての横浜市金沢八景保育園中長期計画が作成されています。</li> <li>・社会福祉法等が改正され、社会福祉法人のあり方が見直される中で、運営法人としてのめ会としても地域福祉を担うために、何が必要かを常に検討しています。平成23年度以降、他の法人とは異なる特色ある保育への転換をしてきたこともその一環です。手厚い人員配置を維持しながら、働きやすい労務環境を整備する方法を継続的に検討しています。</li> <li>・園長は東京都の保育所の第三者評価の情報や、設置法人の会計士からの一般企業の経済情勢や労務環境、運営・経営手法の情報を収集したり、横浜市内の保育関係者等有志による勉強会「横浜の保育を考える会」に参加し、意見・情報交換をしています。</li> <li>・園長は、主任、クラスリーダーを園の将来を担う幹部職員と捉え、園の財務について理解を深めてもらい、効率的な経営をしながら、将来にわたり利用者に選ばれる保育所であるためにはどうしたらよいかを重点課題として議論しています。</li> </ul>
<b>6.職員の資質向上の促進</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「金沢八景保育園職員人材像」が策定されており、経験年数に対応する、目標とする職務および必要な研修が明文化され、全職員に配付されています。</li> <li>・毎年、全職員は園独自の自己目標シートに沿って、年間目標や課題を明らかにし、主任による中間評価、園長による最終評価を行っています。</li> <li>・非常勤職員にも、保育現場で必要なマニュアルを配付しているほか、年度末の職員会議には、非常勤職員を含む全職員が参加し、理念、方針、保育目標を実現していくための、保育の心得や手順が詳細に書き込まれた事業計画を配布して説明しています。</li> </ul>

- 事業計画の中で、「保育計画から保育実践への連動」「計画→実践→評価→改善（PDCA）の理解と定着化」と明記し、職員に自己評価を通して実践の改善やその後の計画作成に反映させていくPDCAサイクルについての理解を促し、実行しています。
- 年間保育計画、年間食育計画、月保育計画、週案・保育日誌とも、それぞれ「ふりかえり」、「月の反省及び次月への検討事項等」、「週反省・検討事項」の欄が設けられた書式が定型化され、自己評価し、文章化ができるようになっていきます。
- 中堅職員が自主的に作成したマニュアル「こころざし」の見直しにあたっては、自らの保育を振り返り、職員間で意見交換をしています。
- 同じ保育観を持つ園と、継続的に交換研修や園見学を実施し合い、相互に啓発し合う仕組みがあります。
- 毎年秋頃、職員が設置法人本部に次年度意向書届を提出し、園長と職員との個人面談する仕組みがあり、職員から満足度や要望のほか、業務改善についての提案や意見も聞き取っています。

## 評価機関による評価



3つ：高い水準にある、2つ：一定の水準にある、1つ：改善すべき点がある

### 評価領域 I 利用者本人（子ども本人）の尊重

#### 評価分類

#### I-1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成



#### 評価の理由（コメント）

・園の基本方針・保育目標は、安全・安心、信頼をモットーに地域との共生を目指すことを基本理念とし、人間関係の基礎を養い、物事に感動する美しい心を育て、誰からも愛され、愛せる、心身ともにたくましい子を育てることを掲げ、利用者本人を尊重したものとなっています。

・全職員は基本方針を、入職時のほか、年度末に全職員が参加する職員会議の中で、園長から説明を受けています。

・少子化社会の中では、普段の生活の中で子ども同士が関わり合う機会が少なく、子どもたちが人との関係を築く方法を自然に学ぶことが難しいことから、保育課程の中で、異なる発達を遂げる子どもたちが生活する場としての異年齢保育は特に重要と考えています。

・0、1歳児、2歳児、3～5歳児のクラスごとに、年間保育計画、月保育計画、週案、デイリープログラムを作成しているほか、0～2歳児については、個人別に月保育計画を作成しています。

・おおむね2歳～5歳の、言語化できる子どもについては、月曜日に、その週にやりたいことを話し合っ予定を決めるとともに、日々の活動については、3～4のプランの中から、それぞれの子どもが、やりたいことを自ら選んで取り組んでいます。

・指導計画によって、子どもに必ず経験してほしい課題活動や、大まかな生活の時間の流れは決めています。常に子ども主体であることを大切に、職員は様々な仕掛けをしながら、子どもが自ら考えて行動するのを見守っています。職員から先に声をかけて、決まった時間に一斉に動くことはありません。

<工夫している事項>

・ホワイトボードの活動表に子どもの顔写真のついたマグネットを貼って、それぞれの子どもがその時間、どのプログラムを選んで活動しているかが、すぐにわかるようにしています。

## I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施



- ・入園決定後、3月の土曜日に入園説明会を実施しています。その際、親子で来園してもらい、20～40分かけ職員が分担して面談し、子どもの様子を観察しています。
  - ・園で共通の「新入園児アセスメントシート」を用い、子どもの生活歴や授乳・離乳の状況などを詳しく聞き取り、把握した情報を児童票に記録して職員間で共有しています。
  - ・慣らし保育は、入園当初は子どもの負担が大きいため、保育時間の短縮が必要な場合があることを保護者に伝えた上で、保護者の仕事の状況や意向にも配慮しながら進めています。
  - ・「人と関わる力を育てる」との保育方針の下、0、1歳児からでも、いろいろな人と関わる権利があると考え、主担当保育者を決めるのではなく、職員が皆でその子のことを受け止めるようにしています。
  - ・各家庭でA6判のノートを用意してもらい、0～2歳児までは、毎日、体温や排泄、生活時間、活動、食事の内容、子どもの様子などを、家庭と園の双方で書き込み、連絡を取り合っています。3歳以降も必要に応じて活用しています。ノートには月別の目標（0～2歳児）のほか、毎月の身体測定や、内科検診（年2回）、歯科検診（年1回）の結果も記録しています。送迎時に、職員から保護者一人ひとりに手渡し、口頭でも内容を伝え、保護者の意向を聞いています。
  - ・日ごろから園の方針として、年齢よりその子の発達を注視して対応しており、2歳児の2階保育室への移行も、新年度に一斉にするのではなく個別の発達状況に応じて対応しているため、一人一人が徐々に環境に慣れて適応しており、在園児は進級時にも混乱なく過ごせています。
  - ・毎日10分会議、毎月クラス会議、クラスリーダー会議、職員会議があり、職員間で保育の進捗状況を共有し、子どもの発達や状況に応じて、指導計画の作成・評価、見直しを行っています。
  - ・保護者の意向は、連絡帳や日々の送迎時の対話、9月の個人面談、年度末のアンケートなどで汲み取り、指導計画に反映しています。
- <コメント・提言>
- ・横浜市の評価基準との関係では、園は0、1歳の新入園児に対して、個別に主担当者を決めていません。

### I-3 快適な施設環境の確保



- ・園の屋内・外とも、園児の動きを見ながら、担当職員により順次掃除がなされ、清潔に保たれていました。
- ・エアコン、加湿器を利用し、保育室内は、適切な温湿度に保たれていました。大きな窓から自然光が十分に取入れられて明るく、通風が確保でき、空気清浄機も置かれ、気になる匂いはありませんでした。
- ・1階に沐浴設備、2階に温水シャワーの設備があり、いずれも清潔に保たれていました。
- ・子どもの自主性を重んじ、園は子ども社会と捉え、日ごろから職員の大きな声や不必要な音楽で子どもを動かすことはしていません。
- ・0、1歳の保育室では、コーナーやテーブルが常設されており、4人以下の小集団で過ごせるようになっています。
- ・0、1歳の保育室では、食事と睡眠の空間は区別しています。2～5歳の保育室では、すべての部屋で遊びますが、食事の部屋と寝る部屋は区別し、午睡等は時間によって目的を明らかにして使い分けています。
- ・1階は0、1歳、2階は2～5歳の子が、日常的に交流しながら過ごしています。

### I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力



- ・0～2歳児について、個別の月保育計画が作成されています。個別目標を設定し、保護者にも伝えて実施しています。
- ・幼児についても、特別な配慮が必要な場合は、個別に課題を明らかにして目標を立て、日々の保育記録を残しています。
- ・個別の保育計画は、毎月、子どもの生活や心身の発達の記録を見直し、次月の目標を立てています。
- ・保育所児童保育要録は3～5歳児の担任が分担して書き、園長が内容を確認して小学校に郵送しています。
- ・子どもや家庭の個別の状況・要望、入園後の成長発達の記録、進級時の申し送り事項等が児童票にまとめてあります。
- ・児童票は、事務室で施錠保管され、全職員が必要時に閲覧し、子どもの情報を把握することができます。

### I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み



- ・運営法人の前身が、約40年前から24時間型の無認可園を開設し、健常児、障がい児、家庭に不安のある子どもなどが一緒に生活をする事業を運営してきた歴史があります。28年度の事業計画の中で、ノーマライゼーションの考え方に基づき、障がい児や個別に支援が必要な子どもを受け入れる姿勢を明らかにしています。統合保育について、入園のしおり、保育課程に明示しています。配慮を要する子を受け入れ、専門機関と連携して対応しています。
- ・虐待の定義が明記された園独自の児童虐待等対応マニュアルが全職員に配布され、虐待が疑われる場合や明白になった場合には関係機関と連携し速やかに対応できる体制になっています。
- ・食物アレルギーを持つ子どもには、医療機関での検査とかかりつけ医からの生活管理指導表に基づいて、除去食を提供しています。栄養士、看護師、保育士が、家庭と連携し、提供時には個別のトレーを使い、ラップに除去食品名を明記し、声かけ確認するなど誤食の無いようにしています。
- ・一時保育でも通常保育でも、外国籍の子どもを受け入れています。保育室に外国の国旗や人形を飾り、自然な形で外国の文化に親しめるようにしています。園の行事を通じて外国籍の保護者と他の保護者の交流が深まる機会を作った事例があります。
- ・子どもは、普段から発達段階の異なる子ども達同士で過ごす環境に慣れており、わけ隔てなく接し、自然に交流する姿が見られました。

## I-6 苦情解決体制



・玄関付近に意見箱を置いているほか、園のホームページからメールで意見や要望が送信できます。懇談会（4月、2月）、個人面談（9月）、年度末のアンケートなど、保護者から意見や要望を聞く機会を多く設けています。

・職員は、日ごろから保護者が意見、要望を話しやすい環境となるよう、保護者との対話や様子の把握を心掛けています。

・八景園保育マニュアル集の中に、苦情対応マニュアルが整備され、苦情や要望があった時には手順に沿って対応し、各種の会議や職員間の連絡ノートで共有しています。

・「意見箱および苦情相談記録綴」が整備されており、職員はいつでも閲覧し、過去の事例を参考にすることができます。

・苦情の受付担当者は園長、解決責任者は運営法人理事長と定め、玄関にその旨の文書を掲示しています。入園のしおりには、苦情解決の仕組みとして、第三者委員制度について記載しています。第三者委員の連絡先が明記され、保護者が直接連絡を取ることができます。第三者委員は運営法人の理事が務めています。

・年度の初めなどに行政から送付される権利擁護機関のポスター等は一定期間掲示して保護者に知らせています。

・園では、保護者から表出された内容が苦情なのか、意見、要望なのかを見極め、園の理念に馴染まない要望には添えないことを、理解してもらうことも必要であると考えています。

<コメント・提言>

・保護者に対し、園での苦情・相談受付、解決についての仕組み（流れ）を入園のしおりにも明記して伝えること、第三者委員を運営法人に在籍しない方とすること、第三者委員以外に外部の公的相談先窓口についても年間を通して情報提供をすることについて、見直し、検討することが望まれます。

## 評価領域Ⅱ サービスの実施内容

### 評価分類

#### Ⅱ-1 保育内容[遊び]



### 評価の理由(コメント)

- ・子どもが主体的に、自分から遊びたい意欲をかきたてられるような保育室や園庭づくりの工夫を大切にしています。保育室は、時間のコーナー（日付や時計の見方を覚え、数字を使って遊ぶ環境）、絵本、絵の具、積み木、製作、ブロックのコーナーなど設定して、子どもが自分で取り出して遊べるようにおもちゃの棚には写真を貼ったり、手が届くように低い棚にしています。
- ・園庭でなわとびをしていた子どもたちは、縄をひっぱって電車ごっこをしたり、築山に登り、砂場遊びのシャベルをギターに見立てて演奏ごっこに発展させて集団で遊んでいます。
- ・保育室では子どもたちは自分の好きな遊びを選んで、お店やさんごっこ、お医者さんごっこ、ままごと遊びをしている子どもや、粘土コーナーで一人で粘土あそびをしたり、絵本コーナーでは静かに絵本を読んでいる子どもなどがいます。
- ・園庭の畑には、白菜、大根、小松菜などが植えられています。夏には胡瓜、トマト、すいかなどを栽培し、成長の過程を観察しています。たいよう組（3～5歳児）のコーナーで、散歩でつかまえた虫やヤモリ、めだか、おたまじゃくしなどを飼育しています。
- ・散歩は遊具のある八景公園、体力の増進目的として散策コースのある野島公園、室の木公園などに出かけ、自然に触れる機会を設けています。
- ・楽器を使ってのリズム遊び、「どんぐりころころ」や「まつぼっくり」などの手遊び、朝の会で季節の歌を歌ったり、音楽に合わせて踊ったりします。製作コーナーではあさがお製作、ふうりん作り、落ち葉製作など、子どもの発達状況にあわせて自由に表現できるようにしています。
- ・幼児クラスではピーステーブル（仲直りするテーブル）が用意されており、子ども同士で話し合っって仲直りするようになっています。話し合いが難しいときは子どもたちが職員に声をかけて助言などしてもらっています。職員は見守るという姿勢を大切にしています。また、異年齢の子ども同士が関わりを持つなかで模倣、伝承、継承されることを（這い這いする子どもの周りには伝い歩きの子ども、伝い歩きをする子どもの周りには歩いている子どもがいるというように）大切にしています。
- ・園庭には築山、縄梯子、切り株、古タイヤ、固定遊具など設置しています。子ども自身が自分の能力に見合うか、ちょっと上の遊びを選び、挑戦する気持ちや運動能力が高められるよう環境を設定しています。

## Ⅱ－1 保育内容[生活]



- ・毎月クッキングの日を設け、とうもろこしの皮むき、白菜やキャベツをちぎるという段階から始めて、包丁を使ってきゅうりを切ったり、梅干を作ったりしています。また、子どもと職員と一緒に給食を作る日を設けています。食事の準備は当番が配膳を手伝ったり、下膳は自分で片付けられるようにするなど、子どもたちが食事及びその過程に関心を持つよう工夫しています。
- ・テーブルの上には生花を飾り、ランチョンマットを使うなど雰囲気づくりに配慮しています。食材はできるだけ国産のものを使用し、食器は磁器食器を使用して安全性に配慮しています。
- ・栄養士は子どもが食事をしている様子などを観察する中で、子どもの好き嫌いや喫食状況を把握しています。献立会議は月に1回、メンバーは各クラスから1名、栄養士、主任で開催し、献立・調理の工夫に反映させています。
- ・献立表は毎月末、保護者に配付しています。食事だよりを毎月発行、季節の食材やその調理法を掲載しています。また、エントランスにその日のメニューと食材の産地、給食のサンプル、翌日の食材を展示し、保護者への情報提供を行っています。
- ・今年度から幼児クラスは、職員に寝かされるのではなく、何時何分から布団に入るかは自分で決めて職員に申告して、休むようにしています。眠れない子どもは、ほかの子どもが寝ている時に大きな声を出す、布団の上を走るなど、他人に迷惑をかけることはしてはいけないことを約束し、自覚して、コーナーで静かに過ごしています。乳幼児突然死症候群対策として、0歳児は5分、1歳児は10分、2歳児は15分ごとに睡眠中の呼吸の有無、寝ている向き、うつぶせ寝を仰向けになおすなどのチェックを行い、睡眠安全チェックシートに記録しています。
- ・排泄は、活動の節目や子ども一人一人の調子や発達状況を考慮し、個人差を尊重して進めています。トイレトレーニングは、子どもがトイレで排泄できたとき、自分から気づいてトイレに行けたときに始めるなど、個々の成長に合わせてタイミングを見ながら進めています。

## Ⅱ－2 健康管理・衛生管理・安全管理[健康管理]



- ・保健衛生マニュアルに基づき、登園時に子どもの様子を観察し、保護者から家庭での様子を聞き取り健康状態を把握します。体調がすぐれない子どもは、外あそびをひかえ食事もおかゆにするなど、体調に合わせての対応をしています。個別の児童票ファイルがあり、その中の児童健康台帳で既往歴を確認することができ、職員はいつでも児童票を閲覧することができます。
- ・内科健診は年2回、歯科健診は年1回実施しており、記録は一人一人の健康台帳にファイルしています。健診には看護師が立ち会い、その結果はクラスノートで担任に伝わるようにしています。保護者には連絡ノートに記入し、お迎え時に口頭でも伝えています。
- ・感染症等への対応に関するマニュアルがあります。保護者に配付している重要事項説明書にも明記され、入園説明会で看護師が説明し、保護者に周知しています。感染症が発生した場合、病名と人数をホワイトボードに記載してエントランスやクラスの入り口に掲示しています。

## Ⅱ-2 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]



・衛生管理に関するマニュアルがあります。出勤時間帯別の「仕事マニュアル」があり、各清掃の場所と方法などが明記されています。職員はマニュアルに基づき清掃等を行い、園舎内外を清潔で適切な状態にしています。大掃除を年4回、計画的に実施しています。

## Ⅱ-2 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]



・安全管理に関するマニュアルは整備されており、年度末の全体会議で話し合っています。保育室の棚は低くしてあり、大きめの棚は壁にはめ込み式になっています。絵本コーナーの本棚はくぎで打ちつけたり、本が落ちないように工夫をしています。毎月1回、火事、地震、津波などを想定した避難訓練を実施しています。広域避難場所（横浜市大）へは日々の散歩の一環として行くようにしています。

・事務所に金沢区内の病院一覧表が掲示しており、保護者や医療機関への連絡体制が確立しています。子どものけがは軽傷であっても、お迎えの時に口頭や連絡ノートで状況など伝えていきます。受診の場合は保護者に連絡してから病院へ行くようにしています。記録は、受診した場合は事故報告書へ、それ以外はヒヤリハットにしています。

・玄関は送迎時以外は施錠し、事務所は不在にしないなど侵入防止策を講じています。不審者侵入を想定した避難訓練を実施しており、全職員の力で通報できる体制を確立しています。警備会社とは夜の防犯のために契約しています。

## 評価分類

## 評価の理由（コメント）

### Ⅱ-3 人権の尊重



・この園では、子どもの主体性を旨とし、子どもの自分からやりたい気持ちを常に尊重して対応しており、職員は見守りに徹し、職員側からせかしたり、何かをすることを強要したりすることはありません。必要などときには子どもと向き合ってゆっくりとわかりやすい言葉で話をしています。

・保育室はコーナーで区切られており、子どもたちは自分の好きなところで過ごしています。一人になりたい子どもは絵本コーナーの柱の陰やちょっとした空間で過ごしています。職員は、子どもからは職員の姿が見えないが職員からは子どもの姿が見える居場所を、意図的に設けて見守っています。昼寝前の着替えの時間には、羞恥心が芽生えてきた子どもに配慮し、必要に応じてパーテーションを置いています。

・職員に対しては、入社時にマニュアルを配付し守秘義務の意義や目的を説明、周知しています。ボランティア・実習生には受け入れ前のオリエンテーションで説明しています。

・子どもが自分で活動を選択するしくみをとっていることで、遊びや行事の役割など性別による区別はしていません。ごっこ遊びコーナーには可愛い衣装が用意されており、男の子もそれを着て遊んでいます。順番やグループわけは性別ではなく、「二人組、三人組で手をつなごう」という声かけをしています。

<工夫している点>

・中堅職員が中心になって保育者としての行動規範「ころぞし～子どもが楽しく生活するために～」を作成し、全職員が行動を共通のものとするよう工夫しています。

## Ⅱ－４ 保護者との交流・連携



- ・3月初めに行う入園説明会で重要事項説明書を配付し説明をしています。保護者懇談会は4月と2月に行い、保育方針を説明する機会を設けています。園長は毎月の園だよりで具体的に子どもの様子を記載し、保護者に保育方針が伝わるよう積極的に発信をしています。エントランスにはお知らせコーナーを設け、日々の子どもの活動を写真や文章で紹介しています。
  - ・登園時、早番職員が保護者より迎えの時間と迎えに来る人、子どもの様子で伝達することなどを聞き取り、伝達ノートに記載、職員はその情報を共有しています。降園時、遅番職員は伝達ノートを見て迎えの時間、迎えに来た人を確認し日中の子どもの様子などの申し送り事項を保護者に伝えていきます。個別面談は希望制にして9月のひと月かけて実施し、ゆっくり話ができるよう配慮しています。
  - ・保護者からの相談は人に聞かれないように相談室を使用しています。相談は記録し「意見箱及び苦情対応相談綴り」にファイル、子どもにかかわることは、児童票にも記録を残しています。
  - ・園だより、クラスだより、食事だより、ほけんだよりを毎月発行し保護者に配付しています。年度末の保護者懇談会では、パワーポイントを使って一年間の様子を写真入りで伝え、保育内容・目的を分かりやすく説明しています。子どもたちの写真、製作物の展示、ホームページのブログで日々の保育の様子を伝える努力をしています。
  - ・保育参観はいつでも可能で短時間、保育の様子を見ることができ、保育参加は誕生日月またはその翌月に、子どもと一緒にその子が一番やりたいことをして1日を過ごすことができます。懇談会は年度初めと年度末（28年度は4月に事業計画の説明、2月に1年間の報告）に全体会とクラス会を実施しています。
  - ・保護者全体との定期的なコミュニケーションはとっていませんが、年度初めと年度末近くに懇談会があり、園と保護者、同じクラスの保護者同士のコミュニケーションを図る機会があります。
- 保護者有志の活動のために要請があれば保育室や情報を提供しています。

## 評価領域Ⅲ 地域支援機能

### 評価分類

#### Ⅲ－１ 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供



### 評価の理由（コメント）

- ・なかよし広場の受入れ、園庭開放の充実、赤ちゃんの駅を開始するなどして、園に対する要望を把握するようにしています。園見学者や園庭開放利用者から、障害の子どもをかかえて困っていることや、子どもの歯ブラシはどうしたらよいかなど、育児相談を受けることを通じて子育てニーズを把握しています。
- ・園庭開放（月～土の午前中）、なかよし広場（第三火曜日午前中）、一時保育（柔軟な受け入れ）、赤ちゃんの駅（今年度開始、2名の参加あり）など提供しています。今年度は乳児・親子ブラッシング教室を6月と11月に開催しています。

**Ⅲ-2 保育園の専門性を活かした相談機能**



- ・保育園外の掲示板やホームページで、園庭開放、なかよし広場、体験給食、育児講座、育児相談などの情報を提供しています。育児相談は定期的に相談日を設けていませんが、園庭開放、なかよし広場等の利用者の育児相談を、いつでも受け入れる体制にしています。
- ・近隣の医療機関、警察、金沢区子ども家庭支援課、横浜市南部児童相談所、横浜市南部地域療育センター等、リスト化して事務所に掲示しています。横浜市南部地域療育センターの巡回指導を受けたり、南部地域療育センター児童発達支援事業所「はらっぱ」などと日常的な連携ができています。また、虐待が疑われるケースでは横浜市南部児童相談所と連携しています。

**評価領域Ⅳ 開かれた運営**

**評価分類**

**評価の理由（コメント）**

**Ⅳ-1 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ**



- ・園行事 8 フェス（夏祭り）は地域の方にも知らせ参加を呼びかけています。
- ・今年度から、区の育児支援の取組の一つである「赤ちゃんの駅」に参加し、授乳やおむつ交換の場として、施設を開放しています。
- ・金沢図書館や3階のコミュニティハウスの図書コーナーに、年長児が、午睡をしなくなった時期の活動として、絵本を借りに行くなどしています。
- ・園に飾る花は地域の花屋に買いに行き、散歩で出会った地域の方と挨拶する、隣接する八景公園や園の周辺のごみ拾いをするなどして、地域との交流を図り、友好的な関係を築いています。
- ・近隣の、ゆめ和柳町保育園の子どもと遊んだり、障害者地域活動ホーム金沢福祉センターのバザーを見に行ったりする交流があります。
- ・町内会に加入していますが、月2回、回覧板がようやく回ってくるようになったばかりで、これまで地域の行事などの情報が十分に得られず、地域の団体と定期的・計画的な交流をするまでには至っていません。

<コメント・提言>  
 地域の中の保育園として、町内会等と協働の企画を実現するなど、計画的な交流をすることで地域との関係をさらに深め、保育所に対しての地域の理解が進むことを期待します。

**Ⅳ-2 サービス内容等に関する情報提供**



- ・パンフレット、ホームページに園の概要や利用案内、地域の親子に向けてのイベント情報を掲載しています。
- ・入園のしおり（重要事項説明書）には、保育内容、利用者負担金、職員体制等について、詳細に記載して、必要な情報を提供しています。区の金沢まつりいきいきフェスタでは保育施設紹介のブースで園のパンフレットを配布しています。
- ・利用希望者には、パンフレット及び入園のしおりに基づいて保育の基本方針等を説明しています。
- ・ホームページに「地域の親子さんへ」として見学を随時受け付けていることを案内しています。
- ・園見学には、園長が対応しています。保育内容をしっかり理解してもらうため、1対1での対応を原則としています。園見学は、できる限り保護者の希望に沿うように日時

#### IV-3 実習・ボランティアの受け入れ



- ・ボランティア受入れマニュアル、実習生受入れマニュアルに基づき、事前オリエンテーションを行い、園の方針や保育内容、利用者への配慮を説明しています。
- ・受入れ、育成の担当は主任とし、ボランティア活動記録、実習生活動記録が整備されています。
- ・27年度はインターンシップ2名、ボランティア36名（近隣高校生による吹奏楽の演奏披露）の受け入れがあり、28年度も1月に受入れ予定があります。実習生は、大学、短大、専門学校等、複数校から依頼を受け、毎年受け入れています。
- ・ボランティア終了後に、ボランティアからの手紙と感想を職員に回覧し、自分たちの保育がどのように見られているかを知る良い機会としています。
- ・実習では、責任実習や部分実習の際に、事前に職員が計画を見てプログラム等を工夫しています。
- ・実習の期間は、日々、振り返りの場があり、関わった様々な職員が実習日誌にコメントし、意見交換をする機会があります。園では、普段の保育を客観的に見られる良い機会と捉えています。

### 評価領域 V 人材育成・援助技術の向上

#### 評価分類

#### 評価の理由（コメント）

#### V-1 職員の人材育成



- ・保育理念実現のため、基準10名を上回る18名の職員を配置しています。
- ・「金沢八景保育園職員人材像」が策定されており、経験年数に対応する、目標とする職務および必要な研修が明文化され、全職員に配布されています。
- ・毎年、全職員は園独自の自己目標シートに沿って、年間目標や課題を明らかにし、主任による中間評価、園長による最終評価を行っています。
- ・外部研修は毎年、各職員が自己目標を立てる際に、希望する研修について申告し、園長と協議の上、参加しています。また、主任とクラスリーダーが前年度の園の自己評価の内容に沿ってOJTを進めています。
- ・横浜市こども青少年局・教育人事課や、横浜女子短大保育センターからは年間研修計画の通知を受け、職員の研修計画に組み入れています。
- ・その他、保育についての考え方を同じくする他園の見学や、設置法人内の保育園との交換研修を行っています。
- ・園内研修は衛生管理等について、職員会議の際に全職員で確認をする機会を設けています。
- ・非常勤職員にも、保育現場に必要なマニュアルを配付しているほか、年度末の職員会議には、非常勤職員を含む全職員が参加し、理念、方針、保育目標を実現していくための、保育の心得や手順が詳細に書き込まれ事業計画を配布しています。
- ・非常勤職員へも研修を案内しています。参加できなかった場合でも、研修報告を閲覧し、必要な情報を得られるようにしています。
- ・非常勤職員の指導は、園全体としては園長、クラス内ではクラスリーダーが担当者しています。

評価分類

評価の理由（コメント）

V-2 職員の技術の向上



- ・年度末に園独自の自己目標シート、自己評価チェックシートを用いて、職員の自己評価を行い、各クラスで話し合っ  
てクラスリーダーがクラス運営の評価の総括をしています。さら  
に、園長が、保護者アンケートの結果も踏まえて園の自己評価を  
行っています。
- ・毎月のクラス会議の中で、外部研修や他園の見学体験につい  
て随時報告し合い、より良い保育環境づくりや対応について検  
討しています。
- ・同じ保育観を持つ園と、継続的に交換研修や園見学を実施し  
合い、相互に啓発し合う仕組みがあります。
- ・年間保育計画、年間食育計画、月保育計画、週案・保育日誌  
とも、それぞれ「ふりかえり」、「月の反省及び次月への検討  
事項等」、「週反省・検討事項」の欄が設けられた書式が定型  
化され、自己評価し、文章化ができるようになっています。
- ・事業計画の中で、「保育計画から保育実践への連動」「計画  
→実践→評価→改善（PDCA）の理解と定着化」と明記し、職  
員に自己評価を通して実践の改善やその後の計画作成に反映  
させていくサイクルについての理解を促し、実行されています。
- ・中堅職員においては、自主的に作成したマニュアル「こころ  
ざし」の見直しをするにあたって、保育の現状を振り返り意  
見交換をしています。
- ・園長は、園の保育についての考え方、子どもの成長の様子、  
保護者アンケートの結果に対しての園としての対応や考え方な  
どを、主に保護者に向けて、園便りの中でわかりやすく伝え  
ています。24年度に実施した、第三者評価の結果は、報告書  
のファイルを事務所前の受付に置き、閲覧できるようにして  
います。
- ・年度末には、園独自の評価票を用いて、職員の自己評価、  
および園の自己評価を実施していますが、外部への公表はし  
ていません。

<コメント・提言>

- ・横浜市では、自己評価の公表が求められています。何らか  
の形での公表を検討されることが望まれます。

V-3 職員のモチベーションの維持



- ・「金沢八景保育園職員人材像」が策定されており、経験年  
数に応じた、目標とする職務が、初任、中堅、主任、管理職  
について明文化されています。また、組織図から職員は自分  
の位置を把握することができます。
- ・園長は日ごろから職員に対し、最終的な責任を取るの  
は園長であることを明言し、保育現場で責任とやりがいをも  
って働けるように励まし、月1回開催のリーダー会議におい  
ても現場の職員に業務の権限を委譲することが、働きやす  
い職場づくりにつながることを確認しています。
- ・毎年秋頃、職員が設置法人に次年度意向書届を提出する  
に当たって、園長と職員との個人面接する仕組みがあり、  
その面接時に職員から満足度や要望のほか、業務改善につ  
いての提案や意見も聞き取っています。

この面接の中で、休憩や年次休暇が十分に取れないとの  
声が上がリ、早番の職員が短時間のみ勤務して退勤する新  
しい「A早退」の仕組みができました。

## 評価領域VI 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p><b>VI-1 経営における社会的責任</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園の就業規則の中に、職員の服務規律が明記され、コンプライアンス順守について周知されています。</li> <li>・園のホームページで、当園を含む法人の財産目録、資金収支計算書、事業報告書が公開されています。園の受付にもファイルが置かれ、閲覧することができます。</li> <li>・他施設での虐待のケースなど、設置法人の施設長会議で取り上げられた情報を、園長が持ち帰り、紙面または職員会議において周知し、啓発しています。</li> <li>・入園のしおり（重要事項説明書）の中で、「環境保護活動実行計画」として、地球温暖化防止のため、節電、節水、ゴミの減量及びリサイクルに取り組むことを明記し、保育の制作の素材として家庭から集めた廃材を利用したり、裏紙使用や夏季のグリーンカーテンづくり、米のとき汁の活用など、省資源・省エネに取り組んでいます。</li> </ul>
<p><b>VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人基本理念、基本方針を明文化した、「平成28年度横浜市金沢八景保育園事業計画」を全職員に配付しています。</li> <li>・年度末の職員会議には、非常勤職員を含む全職員が参加し、上記事業計画について、園長から説明を受けています。</li> <li>・園長は、年度末の個人面談の際に、各職員の理念・基本方針の理解について確認しています。</li> <li>・園庭に新たなデッキテラスと築山のスロープを設置する、大規模な再整備を実施した際には、園便りや玄関前の掲示板で内容を伝え保護者に説明をしました。</li> <li>・子ども・子育て新支援制度の本格実施の際には、新制度における認定の意味や保育時間、保育料についての対応を、入園説明会や懇談会で説明し、当園保育の考え方について理解を求めました。</li> <li>・園内の多職種6名で構成する安全管理委員会があり、月1回のチェックリストに沿った安全点検や、事故統計作成等、園の安全管理について取り組む仕組みがあります。</li> <li>・「金沢八景保育園職員人材像」で、経験年数5年目以降で主任と位置づけ、経験年数に応じて必要とされる研修も明記しています。主任クラスは市主催の主任育成研修に参加するほか、園長の助言の下、年度の自己目標設定時に、個別に受講が必要な研修を計画して参加しています。</li> <li>・主任は特定のクラスには入らず、園長を補佐しながら、各クラスの保育現場の状況を把握し支援する位置づけとなっています。</li> <li>・主任はそれぞれの職員の状況を見たり、話を聴きながら、必要に応じて助言したり、自ら保育の補助に入って指導したりしています。</li> <li>・主任は、それぞれの職員がプライベートの時間も充実させることで、保育に力が発揮できるように、希望にも配慮して勤務表を作成しています。</li> </ul>

### VI-3 効率的な運営



- ・園長は東京都の保育所の第三者評価の情報や、設置法人の会計士からの一般企業の経済情勢や労務環境、運営・経営手法の情報を収集しています。
  - ・園長は、主任、クラスリーダーを園の将来を担う幹部職員と捉え、園の財務について理解を深めてもらい、人件費率が高い中で効率的な経営をしながら、将来にわたり利用者に選ばれる保育所であるためにはどうしたらよいかを重点課題として設定し、議論しています。
  - ・園が理想とする保育を実現するため、現在は基準を上回る手厚い人員体制ですが、更に職員が少なくても現状の保育環境を維持するためには、職員一人ひとりの能力の向上が必要なことを周知し、保育所全体の課題としています。長時間労働を軽減するため、超過勤務を禁止する「早帰りデイ」の仕組みも作りました。
  - ・平成23年～平成28年についての横浜市金沢八景保育園中長期計画が作成されています。
  - ・社会福祉法等が改正され、社会福祉法人のあり方が見直される中で、運営法人としての役割としても地域福祉を担うために、何が必要かを常に検討しています。平成23年度以降、他の法人とは異なる特色ある保育への転換をしてきたこともその一環です。また、安定した経営を継続し、職員の福利厚生を充実させ良い人材を育成していくためにも、手厚い人員配置を維持しながら、できるだけ超過勤務をなくし、十分に休暇が取得できる労務環境を整備する方法を継続的に検討しています。
  - ・後継者育成については、施設長となる資格取得のためにも多額の費用が必要であり、年齢や経験年数以外に、育成後の能力や職員の努力に見合った給与や地位の保障が難しい状況を課題と捉えています。
  - ・園長は横浜市内の保育関係者等有志による勉強会「横浜の保育を考える会」に参加し、意見・情報交換をし、障害や高齢など他分野の専門家の意見も聞き、参考にしています。
- <コメント・提言>
- ・幹部職員の後継者育成については、費用負担等種々課題はあると思いますが、園の将来を展望した中でご検討を期待します。

# 利用者家族アンケート

事業所名： 横浜市金沢八景保育園

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

## 結果の特徴

### ◇ 調査対象

調査時点での在園児数 69名、全保護者 60 家族を対象とし、回答は39家族からあり、回収率は65%でした。

### ◇ 調査方法

評価機関で準備した「家族アンケート用紙」と返信用封筒を、保育園から保護者に直接渡し、約2週間後までに密封して匿名で 保育園で用意した回収箱に入れてもらい、密封のままの状態の評価機関が回収しました。

### ◇ 総合満足度

肯定的な回答は 90% (満足 57%、どちらかといえば満足 33%) と高い評価を得ており、否定的な回答は 10% (どちらかといえば不満 10%、不満 0%) でした。

### ◇ 比較的満足度の高い項目

1) 入園前の見学・説明・情報提供	満足度	100%
2) 給食の献立内容	満足度	100%
3) 園の行事の開催日や時間帯への配慮	満足度	96%
4) 年間の保育や行事についての説明	満足度	94%
5) お子さんが給食を楽しんでいるか	満足度	94%
6) あなたのお子さんが大切にされているか	満足度	94%
7) 園の様子や行事に関する情報提供	満足度	94%

### ◇ 比較的不満足度の高い項目

1) 外部からの不審者侵入を防ぐ対策	不満足度	28%
2) 保育中にあったケガに関する保護者への説明	不満足度	20%
3) 送り迎えの際のお子さんの様子の情報提供	不満足度	18%
4) 自然に触れた地域に関わる園外活動	不満足度	18%
5) お子さんに関する重要な情報の連絡体制	不満足度	15%

## 調査結果

### ■園の基本理念や基本方針について

施設の基本理念や基本方針の認知	よく知っている	まあ知っている	どちらともいえない	あまり知らない	まったく知らない	無回答
	23%	64%	10%	3%	0%	0%

↓ 問1で「よく知っている」、「まあ知っている」と回答した方のうち

#### 付問1

理念や方針への賛同	賛同できる	まあ賛同できる	どちらともいえない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答
	59%	35%	6%	0%	0%	0%

### ■施設のサービス内容について

#### 問2 入園した時の状況

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
見学の受け入れについては	77%	15%	0%	0%	8%	0%
	その他:					
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	72%	28%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
園の目標や方針についての説明には	67%	30%	3%	0%	0%	0%
	その他:					
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応については	74%	18%	3%	0%	5%	0%
	その他:					
保育園での1日の過ごし方についての説明には	51%	41%	5%	3%	0%	0%
	その他:					
費用やきまりに関する説明については	64%	30%	0%	3%	3%	0%
	その他:					

#### 問3 保育園に関する年間の計画について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
年間の保育や行事についての説明には	54%	41%	5%	0%	0%	0%
	その他:					
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	36%	46%	5%	5%	8%	0%
	その他:					

#### 問4 日常の保育内容について

##### 遊びについて

	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	その他	無回答
クラスの活動や遊びについては (お子さんが満足しているかなど)	56%	33%	8%	3%	0%	0%
	その他:					
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	56%	28%	8%	5%	3%	0%
	その他:					
園のおもちゃや教材については (お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	64%	28%	5%	3%	0%	0%
	0					
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	51%	28%	13%	5%	3%	0%
	その他:					
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もっているかについては	57%	33%	10%	0%	0%	0%
	その他:					
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	41%	43%	10%	3%	3%	0%
	その他:					

##### 生活について

	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	その他	無回答
給食の献立内容については	79%	21%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	72%	22%	3%	0%	3%	0%
	その他:					
基本的な生活習慣(衣服の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	48%	41%	8%	0%	3%	0%
	その他:					
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	48%	36%	10%	3%	3%	0%
	その他:					
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	40%	31%	8%	0%	18%	3%
	その他: まだ、始めていない。おむつが外れてから入園した。					
お子さんの体調への気配りについては	72%	15%	13%	0%	0%	0%
	その他:					
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	49%	26%	10%	10%	5%	0%
	その他:					

### 問5 保育園の快適さや安全対策について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
施設設備については	38%	46%	10%	3%	3%	0%
	その他:					
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気については	51%	36%	13%	0%	0%	0%
	その他:					
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	23%	43%	15%	13%	3%	3%
	その他:					
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	56%	33%	8%	0%	3%	0%
	その他:					

### 問6 園と保護者との連携・交流について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	66%	26%	8%	0%	0%	0%
	その他:					
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	72%	22%	3%	3%	0%	0%
	その他:					
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	74%	20%	3%	3%	0%	0%
	その他:					
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	54%	26%	15%	5%	0%	0%
	その他:					
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	54%	31%	10%	5%	0%	0%
	その他:					
保護者からの相談事への対応には	61%	25%	8%	3%	3%	0%
	その他:					
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	74%	15%	3%	3%	5%	0%
	その他:					

**問7 職員の対応について**

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
あなたのお子さんが大切にされているかについては	66%	28%	3%	3%	0%	0%
	その他:					
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	64%	28%	8%	0%	0%	0%
	その他:					
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	56%	21%	5%	3%	10%	5%
	その他:					
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	56%	31%	8%	5%	0%	0%
	その他:					
意見や要望への対応については	53%	33%	8%	3%	3%	0%
	その他:					

**問8 保育園の総合的評価**

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答
総合満足度は	57%	33%	10%	0%	0%

# 観察方式による利用者本人調査

平成 28 年 11 月 28 日

事業所名：横浜市金沢八景保育園

## 【ほし組】(0、1 歳児)

### <食事>

保育室の棚に食事が運ばれて来て、テーブルにエプロンやおしぼりが用意されました。それに気づいた子どもが、遊びをやめて自分でおしぼりとエプロンを持ってきて、自分の好きなテーブルに座っています。絵本を見たり、ブロック、積み木で遊んでいる子どももいます。先にテーブルに座った子どもに気がついた子どもが、同じように自分でおしぼりなどを取りに行き、テーブルに座ります。保育士が全員に「食事ですよ」という声かけはしていませんが、他の子どもの動きに気がついて自らも動き、一つのテーブルに人数が揃ったら食事を始めています。保育士は傍で子どもに静かに話しかけ、見守っています。

その子どもの発達に合わせて、食事を 1 品だけ手で運ぶ子ども、2 品をトレイにのせて運ぶ子どもなど、それぞれ違っています。配膳の順番を待っている子どもたちは、保育士に絵本を読んでもらったり、手遊びで遊んだりしています。

食事が進んで、お代わりをもらいにくる子に、「〇〇ちゃん、ほうれん草も食べてみて」「ひじき美味しかったの?」「ほうれん草にコーン入ってた?一緒に食べられそう?」「〇〇君、ひじき食べますか、お魚は?」「どうぞ」など保育士が一人ひとりの子どもの目を見て言葉をかけ、様子を確認しながらお代わりを渡していました。子どもたちは、保育士を信頼し、静かに安心した様子で過ごしていました。

### <遊び>

おやつを食べ終わった子どもは、自分の遊びたいコーナーに行き行って遊んでいます。ラジカセを持って保育士がバルコニーへ行くと、一人の子どもがついて行きます。音楽をかけて保育士が踊りはじめると、じっと眺めていたその子どもは、自分も跳んでみたり手を動かしたりしています。他の子どもたちも次々に入り口のドアのところに寄ってきて、外を眺めています。保育士は外に行きたそうにしている子どもに「外で遊ぶ?」と言葉かけをして、ジャンパーなど着せています。バルコニーは数人の子どもたちが音楽に合わせて「きゃ、きゃ」と声をあげて跳んだり、走ったり、ゴロゴロ転がって遊んでいます。

## 【にじ組】(2歳児)

### <散歩>

出発前、どうするか迷っている子に、保育士が「お散歩いくの？みんな待ってくれてるよ」と声をかけ、「ジャンパー ○ちゃんのどれ？」「これ着ていく？」「今日はお山の方に行くのですって」と話しながら、子どもが手に持ったままの靴をそっと受け取り、「痛くない？」と丁寧にはかせて、2階の階段から手をつないでゆっくり下へ降りて行きました。

今日の活動で「散歩」を選択した子どもは4人です。保育士が2人付き添い、室の木公園まで20分位の距離を元気に歩きました。道中、子どもたちは「みんなで手をつなごう」「トトロの歌」「アナと雪の女王」など歌っています。保育士は子どもからでてきた歌と一緒に歌います。いろいろな花が咲いているところでは、「あっ、ピンクだよ。」「赤いのもあるよ」「紫だよ」などと子どもたち同士で伝えあっています。保育士は「そうだね。ピンク色しているね。」など、子どもの言った言葉を反復して話しかけています。空を飛んでいるトンビを見つけると「とりが飛んでるよ。」と保育士に話しています。保育士は、「本当だね。トンビかな」と言葉をかけています。ヘリコプターの音がすると空を見上げ手を振る子ども、歩道橋の坂道に来ると「チイチイパッパ、チイチイパッパ、ポッポー」など口をそろえて歌いながら登っていく子どもたちを、保育士は傍で見守っています。

公園に着くと、落ち葉の音や「大きい葉っぱだよ、これは小さいね」など落ち葉の大小に気づき、木の実を見つけると「三つあるよ、二つあるよ」と数を覚えるなど、子ども自身で発見の連続です。ある子どもが「むっくり熊さんやりたい」というと、他の子どもも寄ってきて保育士も一緒に「むっくり熊さん」の鬼ごっこあそびが始まりました。「熊さんをやりたい！」とどの子どもも言うので、みんなが鬼さんになるまで続けています。保育士は最後の子どものときに「じゃこれで最後にしようか？」と言葉かけをしました。見るもの、聞くもの、周囲の何気ないものにも反応し、自分の思いを自ら発し、歓声をあげて跳んだり走ったりして元気いっぱい、約1時間半の散歩を楽しんでいました。

### <室内遊び>

おままごとコーナーで「○○ちゃんがお熱出ちゃったの」と人形を抱く子、「ペットが死んじゃったの」と言いながら、保育士を探しにくる子、○○パンチと言いながら調査員を敵に見立てて、攻撃してくる子がいました。そのうち一人の子が友だちのうしろについて「どっこいしょ」と「大きなかぶ」ごっこになり、しばらくの間、近くから笑顔で見守っていた保育士が、危険が無いよう「あっちに行こうか」と手をつないで、広いスペースにさりげなく子どもを移動させて行きました。

ままごとのシンクの上に立って遊んでいた子には「〇〇ちゃん 危ないから降りよう」と穏やかに声をかけ、下に降ろしていました。昼食が始まって、抱いた人形にご飯を食べさせたりして、ままごとを続けている子どももいました。

部屋から出てきて、廊下にある帽子掛けから、みんなの帽子を全部落としてしまった子がいました。保育士は少し離れたところから見ていましたが、「直そうか」と静かな調子で声を掛け、子どもはかけ直し始めました。通りかかった子どもが、それを見て、黙って手伝い始め、全部が元に戻ると、保育士が子どもたちに「有難う」とお礼を言っていました。

### <食事>

配膳台のところには当番の子ども一人と保育士が座っています。保育士は子ども一人一人に「どれ位食べられる？1個？2個？」と聞いて盛り付けています。ある子どもが「いっぱい」と言うと、保育士は「食べられる？」と聞き返しています。盛り付けてもらおうと、子どもはこぼさないよう気をつけて、トレイで自分の席まで運んでいきます。ある子どもが、トレイを返さないでテーブルに食器をのせたままにしていました。保育士が「〇〇ちゃん、他のおともだちがご飯運べなくて困っているよ」と言葉かけをしています。その子どもは1、2分考えていましたが、トレイを配膳台へ戻しに行きました。テーブルに戻ると「できた」と保育士に伝えています。「〇〇ちゃん、偉かったね」と保育士は言葉をかけていました。

午睡を始める子どもがいても、まだ食べている子どももいました。

食事中に、一人の子どもが散歩の時に拾った木の実をどうするかで、子どもたちの間でトラブルが起こりかけましたが、保育士がそれぞれの考えを丁寧に聴いて、木の実は拾ってきた子どもの元に戻りました。

### 【たいよう組】(3～5歳児)

#### <遊び>

テーブルで2人の男児が、会話をしながらブロック遊び。飛行機のような作品を見ながら、保育士が「アメリカに行くんだって」などと声をかけています。できた作品を「〇〇先生、見て！」と持ってきた子があり、保育士は「大切に飾っておくね」と答え、作品に子どもの顔写真が付いたゴムをつけ、ロッカーの上に壊れないように置いていました。

調査員のところに「これ 箱かなー こうやって使うのかな」と何かの部品を見せにくる子、隣のテーブルで黙々とブロックの品を作る子、絵本を自分で取り

に行って一人でテーブルで読み始める子と様々です。「チューリップ」と言いながら、製作材料のある棚のそばにやってきた子どもに、保育士が、「折り紙？」「チューリップ作るの？」「何色がいいかな？1枚？」と声をかけ、赤い折り紙を2枚渡し、子どもは静かに元のテーブルに戻っていきました。友達同士で歌を教え合ったり、ブロックを入れて飾るケースを友達の分まで持ってくる子の姿が見られました。

どの子どもも、楽しそうな様子で、落ち着いて自分のやりたいことに取り組んでいました。

友達とケンカをしたらしく、泣いている子がいましたが、部屋の隅で保育士が向き合って話をしていました。

5歳児は女児2人と男児3人で一つのテーブルを囲み、保育士が一人ついて課題のクリスマスのオーナメント作りに取り組んでいました。

紙粘土を丸めたり、ヘラで切ったり、自分で描いた設計図を見ながら作業を進めます。保育士は子どもの様子を見ながら、「できたら教えてね」「お、いいじゃん、いいじゃん」「よくこねて」「お水もちょっと足してね」と励まし、途中で勢い余って道具を飛ばしてしまったり、歌を歌い始める子、その子と一緒に歌い始めた子に、「早くしないと固まっちゃうよ」「しわしわに水つけてみて」と注意を促していました。そのうち、次々「できた」「先生できた」と子どもから声が上がり、「できたらOK、OK じゃあ、そのまま置いて、乾かせるように」と応じていました。作業の進みが遅い子どもには、少し手を貸しながら、「終わり？」「違う」「これは？」「お月さま」と、子どもの考えを丁寧に確認していました。子どもはそれぞれのペースで、安心して取り組んでいました。

オーナメントの色付けに係っているグループでは、「色が混ざって」「何色？」「ぶどうジュースみたい」と色についての話題が盛り上がっていました。

「先生、(粘土で作った部品が)とれるんだけど」「先生 黄色ほしい」と子どもからの要求に、保育士が一つ一つ対応し、「丁寧に塗った方がいいよね」「皆さん大丈夫ですか？塗れてます？」「終わる時間を気にしよう」と注意も促していました。3歳児の子がやってきて、やや怪訝な表情を見せた年長児たちに、保育士が「どうしても絵具やりたいんだって」「席が空いているから、やらせてあげてね」と仲立ちをして年少の子も一緒に絵具遊びに取り組んでいました。

音楽活動として、手作りのマラカスを振りながら、キーボードの周りに子どもが集まって、クリスマスの歌を歌っていました。ワンツースリー、ABC、かえる、など子どもから次々歌いたい曲のリクエストがあり、保育士がそれに順番に応じていき、元気よく、大きな声で歌う子どもの姿が見られました。

## <食事>

保育士がテーブル並べを始めると、テーブル拭きを手伝おうと寄ってくる子がいました。

お当番のしるしのバンダナを「やっぱりお当番いい」といって途中ではずしてしまう子がいましたが、保育士は「〇〇くん おなかすいちゃったんだね」と応じていました。手伝い始めた子どもに、ほかの子にも声をかけることを提案し、子どもが他の子どもを連れてきて、手伝う仲間が増えました。テーブル拭きを手伝う子もいれば、テーブルの周りをぐるぐる回って拭いているうちにじゃれ合って鬼ごっこを始めてしまう子もいました。保育士は、淡々とテーブルを拭き、食事の準備を進め、手伝ってくれた子どもたちに「どうもありがとう」とお礼の言葉を伝え、お礼を言われた子どもたちは、少し誇らしげで嬉しそうな表情を見せていました。

テーブルに人数が揃ったところから「いただきます」と言って、食事を始めます。バイキング形式で、子どもたちはそれぞれに、トレイ、食具（スプーン、フォーク、箸）を選び食器を載せて、配膳係りの保育士と当番の子どもにおかずやごはん、みそ汁を盛り付けてもらいます。「ごはんをたくさん入れてください」とか「お野菜を減らしてください」など、自分で食べられる量を決めています。盛り付けてもらおうと、トレイをしっかりとって、こぼさないよう気を付けながら自分の席へ運んでいます。調査員がトレイを持って配膳台の所で並んでいると、一人の子どもが寄ってきました。「ご飯はここだよ」「お茶はこっちだよ」と教えてくれて、テーブルまで案内してランチョンマットの上におかずなど置くことを伝え、「トレイはあっちに持っていくんだよ」と説明してくれました。スプーン、フォーク、箸を選んだ子ども、スプーンと箸を選んだ子ども、スプーンだけの子どもなど、一テーブルにいろいろな子どもが入り混じって食事をしています。保育士はその中で一緒に食事をしながら子どもたちの様子を見守っています。

早くにテーブルについたのに仲間がそろわず、後から準備を始めグループの方向、先に食べ始めたりする場面もありました。調査員と一緒に食事をしたいと側によってきた子が、だんだん眠くなって床に倒れ込んでしまう場面がありましたが、保育士は、その子に気が付きましたが、しばらくの間はそのまま、同じ状態が続くのを見極めて「一緒にご飯食べたいの?」「お隣の開いている席ではダメなの?」「どうしようか、一緒に考えよう」など必要最小限の声かけの

みをして、指示はせずにいました。最後に、その状態があまりに長く続くので、隣にもう一つ席を作って一緒に食べることになり、やっと食事が始まりました。食後に、5歳児の子どもが自分の食器を一生懸命に洗っている姿も見られました。

## 【にじ・たいよう組】

### <午睡>

食事が終わった子どもから歯みがき、トイレを済ませ、着替えの場所でパジャマに着替えています。眠くなった子どもは、すぐお布団に入りゴロゴロしながら眠りに入ろうとしています。絵本コーナーでは2、3人の子どもたちが本をみています。にじ組のままごとコーナーでは保育士と6、7人の子どもたちがままごと遊びをしています。その隣の粘土コーナーでは一人で粘土遊びをしている子どもがいます。保育士が一斉に午睡をさせるのではなく、子ども自らが寝たくなったらお布団に入り午睡をするという姿が見られます。らいおんタイムコーナー（午睡をしない年長児が過ごす場所）では静かに絵本を読んでいる子どもがいます。その傍で保育士は記録など書いていました。

### <排泄>

活動の前とか時間の節目でトイレタイムがあるのではなく、子どもたちは自分がトイレに行きたいときに行くようにしています。トイレのスリッパは後ろ向きになり揃えて脱ぐようにしているので、いつもきれいに揃っています。にじ組では、午睡の前は「紙パンツにする？お姉さんパンツにする？」など、保育士に言葉をかけてもらい自分で選んでいます。

平成29年4月1日

## 第三者評価受審の動機

### 動機

- ① 当園は指定管理者制度に沿って保育所運営を行っており、その協定内に5年に一度の第三者評価の受審が義務づけられている。また当法人内施設殆どが第三者評価を受審するので合わせて受審することとした。
- ② 前回の受審から数年たち、保育園を取巻く環境が変わってきている中、今の保育所に求められる保育園の姿や保育士像を職員自ら考え、行動できるようになるための気付きやプロセスを通して本園の今後の課題とするために受審した。

### 手法

リーダー層・中堅層・新人層からランダムにグループを作り、評価受審に向けてのスケジュールの基、各チームが自主的に勉強会を開催した。経営層は主にファシリテーターとして、文中の文言の内容や解決を一緒に行った。

11月に出来上がった自己評価をリーダーが持ち寄り、経営層とすり合わせ最終自己評価として機構に提出とした。

### 受審をしての感想。

当園は3回目の受審になりました。前回の24年度に受審した時の職員も在籍していたため、評価項目の内容が何を問いているのかをみんなで話し合う（プロセス）に重点を置き進める事ができたと思います。また、みんなで話し合いを進めていく中で、チームワークや質の向上にもつながり、さらに当園のまだ未熟な点や工夫が必要な点も全員で再確認する事ができました。評価結果報告書を基に、次の課題を掲げて、将来を見据えた計画の再構築を行い、一年ずつ成長するように職員全員で取組んでいきたいと思っています。

### 最後に

ナルクの皆様。評価受審の際は大変お世話になりました。評価結果を基に、次のステップになんとか行けそうです。今後ともよろしくお願ひ致します。

金沢八景保育園  
職員一同